



## 教官公募

下記の人事について公募します。

(東京工業大学理学部地球惑星科学科)

### 記

1. 公募人員：助教授1名

2. 専門分野：宇宙化学（実験）

宇宙化学の分野にあつて、独自の実験ラボを立ち上げ、活力のある研究を推進できる方を希望します。東京工業大学理学部は平成10年度から大学院重点化される見込みです。学部及び大学院の修士・博士課程の教育を積極的に担うことのできる人材を求めています。

3. 着任時期：決定後できるだけ早い時期

4. 応募書類：

- ・履歴書
- ・業績目録（査読雑誌掲載「論文」とそれ以外の「総説等」に分けてください。また、重要とお考えのもの（主要論文）数編に○印を付けてください。）

- ・主要論文（5篇以内）の別刷（あるいはそのコピー）
- ・「今後の研究計画」及び「学生院生教育についての抱負」
- ・応募者に関する所見をうかがうことのできる方、1ないし2名の氏名及び連絡先

5. 応募書類の締切：平成10年2月16日（月）必着

6. 応募書類送付先ならびに問い合わせ先：

〒152-0033 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学理学部地球惑星科学科  
教官選考委員会委員長 高橋栄一

TEL：03-5734-2338

FAX：03-5734-3538

E-mail：etakahas@geo.titech.ac.jp

※応募書類の封筒には「宇宙化学助教授」応募と朱書してください。

## 訂正

巻号	頁	項目	誤	正
44.12	874	英文標題	Numerical Simulation	A Numerical Simulation
	905 右カラム	今年お世話になったレフェリーの方々	古門 洋	吉門 洋

## 日本気象学会1998年度春季大会シンポジウムのお知らせ

日 時：平成10年5月28日（木）13：00～15：00

場 所：竹橋会館（瑞宝）

テーマ：予測可能性……カオスへの挑戦

### 主 旨

大気を支配する力学系に潜むカオスの影響により、時間積分と共に初期値に含まれる誤差が拡大して、一つの初期条件から時間積分に基づく決定論的な予測が不可能になることが知られている。このため、数値予報ではこの予測限界を考慮して、費用対効果の高いシステムを構築することが重要である。例えば、あらかじめ初期値の誤差を意識して多数の初期条件を作成し、それぞれから出発した多数の予測結果を総合して、確率的な予報を発表するアンサンブル予報が業務化されつつある。また、初期条件の誤差と予測結果の誤差との関係を記述する手段も開発されてきており、予測誤差を効果的に小さくするためには、どこで何を観測すればよいか、という議論も可能になってきている。

このように天気予報の可能性を追求する研究の進展により、観測システムの設計からテレビでの天気予報の発表形態に至るまで、カオスに対する戦略が確立されようとしている。今回のシンポジウムでは、予測可

能性の研究とそれを利用する予報現場からの報告に基づきカオス戦略の展望を議論していきたい。

### プログラム

司会：隈 健一（気象庁数値予報課）

### 基調講演

予測可能性概論：余田成男（京都大学）

データ同化と初期値依存性：露木 義（気象庁数値予報課）

予測可能性とアンサンブル予報：高野清治（気象庁気候情報課）

### コメンテーター

今後の展望について：木本昌秀（東京大学気候システム研究センター）

### 総合討論

### 問い合わせ先

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁予報部数値予報課 隈 健一

TEL：03-3212-8341 内線（3315）

FAX：03-3211-8407

E-mail kenkuma@npd.kishou.go.jp

## 訂 正

44巻2号137-141のシンポジウム欄「都市気候学に関する国際会議（ICUC'96）に参加して」で140ページ右コラム12行目でEssen大学の所有する移動気象観測車の価格を約73億円と記載しましたが、正しくは約7,300万円でしたので訂正いたします（一ノ瀬俊明）。